

第4回平和に関する市民勉強会議事録

【日時】2007年2月4日(日)13:30~15:40

【場所】かしはら万葉ホール3階会議室

【参加者数】11名

【概要】大学3回生のTさんに「従軍慰安婦」に関する問題提起の話をしていただき、その後、質問も含めて参加者全員で関連する事項について話し合った。

【勉強会内容】

[1] 主催者あいさつ

- ・ 昨年6月にこの勉強会を始めて半年余りになる。この間だけでも様々な出来事があった。2006年7月に北朝鮮の弾道ミサイル実験、10月に核実験があった。国内ではこれに対して核武装論、敵基地攻撃論が取りざたされた。9月に安倍内閣が発足し、12月に教育基本法改正法案が成立、防衛省昇格も行なわれた。
- ・ 一方、アメリカではブッシュ大統領がイラクへの2万人増派を表明したが、議会は反対している。次の大統領選とも関連してかなり変化が出てきた。
- ・ 安倍首相が誕生した際、アジア外交への姿勢が注目された。その象徴として1995年の「村山談話」、1993年の「河野談話」を継承するかどうかが話題になった。結局、両方とも継承するという立場を取った。「河野談話」は従軍慰安婦に対する政府の見解を示したものであり、折にふれ注目される。しかし、最近、従軍慰安婦問題自体が話題に上ることは少ないので、もう一度見直す必要があるのではないかと考えている。
- ・ そういう背景もあって、慰安婦問題に取り組んでいる神戸女学院大学の石川康宏教授に、石川研究室の学生さんに問題提起の話をしてもらうことをお願いした。3回生のTさんが引き受けてくださり、今日来ていただいた。

[2] 問題提起 … 「従軍慰安婦」

前半は配布資料に基づいて「従軍慰安婦」に関する説明をしていただき、後半は「ナナムの家」を訪問された時の写真を紹介しながら感じたことなどを話してもらった。

(1) 従軍慰安婦とは

- ・ 「従軍慰安婦」: 第一次上海事変(1932年)からアジア太平洋戦争までの間、日本軍の管理下に置かれ無権利状態のまま一定の期間拘束され、性奴隷として扱われた女性達のこと
- ・ 「従軍」 “自発的”、「慰安」 “慰めて心を安らかにすること” というイメージがあり、「従軍慰安婦」という言葉自体、実態を反映した言葉ではない
- ・ 一番初めに作られた「慰安所」は上海。日本軍陸軍らによって設置された。
- ・ 1937年7月 日本が中国に対して全面的な侵略戦争を開始した。そこで中国各地に大量に軍慰安所が設置された。
- ・ 性病の防止と多発する強姦事件の防止を目的として慰安所が設置されたが、実際に強姦事件はなくなり後を絶たなかった。また、性病予防も軍によって予防策はとられていたが、減少したどころかむしろ増加していった。
- ・ アジア太平洋戦争(1941年)が始まると、慰安所の数はますます拡大。現在確認されているだけで、中国・香港・マカオ・フランス領インドシナ・フィリピン・マレー・シンガポール・英領ボルネオ・オランダ領インド・ビルマ・タイ・太平洋地域の東部ニューギニア州・日本の沖縄諸島・小笠原諸島・北海道・千島列島・樺太。これらにとどまらない。

- ・ 日本人・朝鮮人・台湾人・中国人・フィリピン人・インドネシア人・ベトナム人・ビルマ人・オランダ人が「慰安婦」として徴収された。
- ・ 彼女達は、いい仕事があるとたまされて連行されたり、身売りされて連れ出されるケースがほとんどだった。
- ・ その苦悩は戦争終結によって解決されたものではなかった。必死に生き残ったとしても、日本軍は敗戦の瞬間に「慰安婦」を殺し、置き去りにしているのだから、故郷に帰ることの出来なかった「慰安婦」がたくさんいる。
- ・ 帰ることが出来たとしても、後遺症やトラウマなどで悩み、また、汚れた者として社会的差別を多く受け、苦しい生活を強いられなければならなかった。
- ・ 1991年12月にはじめて3人の元「従軍慰安婦」が日本政府の謝罪と補償を求めて東京地裁に提訴。そのなかのただひとり本名で名乗り出た女性が金学順（キムハクスン）さんである。
- ・ 金学順さんは、「日本軍に踏みつけられ、一生を悔みに過ごしたことを訴えたかったです。日本や韓国の若者たちに、日本が過去にやったことを知って欲しい。」と述べた。
- ・ 韓国の女性団体は日本政府に対し、6つの事を共同声明として発表した。

日本政府は朝鮮人女性たちを従軍慰安婦として強制連行した事実を認めること。

そのことについて公式に謝罪すること

蛮行のすべてをみずからあきらかにすること

犠牲となった人々の為に慰霊碑を建てること

生存者や遺族達に補償すること

こうした過ちを再び繰り返さないために、歴史教育でこの事実を語り続ける事

- ・ 日本政府は、日本軍の関与を認め、公式に謝罪した。しかし、政府は「慰安婦」の募集と「慰安所」の設置に対し「軍の要請を受けた業者が主」として、軍の関与には「間接的」だった場合があると余地を残したり、公式に謝罪したとはいえ、国家間の請求権は決着済みとし、個人の補償は行えないという態度を変更していない。また、村山内閣時に行った「民間基金」制度（元「慰安婦」に対して見舞金として贈与する方式）で補償は終わったとしている。しかし、ほとんどの元「慰安婦」たちは受け取りを拒否した。

（2）ナムムの家訪問と感じたこと

- ・ 当初、ナムムの家に行くのが怖かった。理由を考えると、1つには親が韓国人に対して差別的なことを言っていたことがある。2つ目には日本人のひどい仕打ちに対し、ハルモニがその子孫である自分たちを受け入れてくれるかという不安があった。
- ・ 韓国に行った初日に道路を渡る際、韓国の老人に日本語で「どけよ」と言われた。気安く入り込めないことを感じた。
- ・ ナムムの家を最初見たときは、かわいい暖かい家だと思った。しかし、歴史館で再現された慰安所の部屋を見たとき、壁から変な力が加わっているように感じ、涙が出そうになった。たらいとベッドしかない部屋を見て不思議な力を感じたことでハルモニの感覚が少しわかったような気がした。
- ・ ハルモニが「日韓が兄弟のように仲良くなれば良い」と言ってくれたことがうれしかった。被害者がこのように言ってくれるのに、日本人は自分たちが正しいと思い込んでいるのではないかと思った。
- ・ 私たちにできることは、皆さんに少しずつ伝えていくことだと思う。水曜集会に参加していた韓国の若者と日本の若者とが手を取って若者の力で日本を変えていきたい。できることからするのが問題解決の第一歩だと思う。

[3] 質疑応答と議論

* 個人名は記入していません。以下の () 内のアルファベットが同じ発言は同じ方の発言です。

[日本の責任と謝罪]

- (A) 水曜集会で抗議している写真があったが、場所はどこか。また、参加しているのは韓国人か
- (T) 場所は韓国の日本大使館前。毎週水曜日に行なわれており、韓国人中心だが日本人が加わっていることもある。
- (B) 慰安婦の方はどのくらいの人数いたのか。
- (C) はっきりはしていないが目安として、吉見義明氏の本には 5 ~ 20 万人、秦郁彦氏の本には 2 万人くらいと書かれている。かなり幅が広い。
- (B) 日本政府の対応はどうなったのか
- (T) 1993 年の「河野談話」で慰安婦に対する謝罪はした。しかし、民間業者が主だったとするなど直接的な謝罪になっていない面がある。
- (C) 私は T さんの考えと異なり、河野談話で日本の責任を認めたとする。村山内閣の時にできた「アジア基金」は国家補償でなく民間補償という形にしたため、先ほどの T さんの話にあったように受け取りを拒否され、うまくいかなかった。基金側にも問題はあったのかもしれないが、受け取る側も各個人の判断というより組織の判断で受け取らなかった面がある。うまくいかなかったことを非常に残念に思う。
- (T) 謝られていないのにお金を受け取ることができないという考えだと思う。実際には、東南アジアの生活が苦しい方々には受け取る人が多くいたらしい。
- (D) 来月末にアジア基金の財団（正式名称：財団法人 女性のためのアジア平和国民基金）が解散になるらしい。補償は終わったのかと思っていたがそうではないのか。また、村山談話や河野談話というのを受け入れられていないと思うか。
- (T) 日本は補償が終わったと考えているが、実際には終わっていない。また、韓国では村山談話や河野談話は受け入れられていないと思う。
- (C) 慰安婦の方が高齢であることから「償い金」に関しては 5 年でやり終える予定だったようだ。そして、2002 年に終了している。HP によると 285 名が受け取ったらしい。
- この問題が表面化した 1991 年の宮沢内閣から、基金ができた 1995 年の村山内閣の間というのは、この 20 年から 30 年の間で最も戦争責任問題を解決しようとした時期だったように思う。今思えば、その時しか解決できなかったかもしれない。それ以降は逆方向に進んでしまい、解決が難しい状況になってしまっている。
- (T) 責任を認めて解決できる時代だとか、できない時代だとかという考えは間違っている。自分たちで変えられるし、いつでも認めようと思えば認めることができるはずだ。
- (A) 歴代政府は戦争そのものについて十分反省していない。慰安婦についても強制連行があった話を昔に聞いたことがあったが、政府は認めてこなかった。戦争補償については全体としては終わっているのだろうが、個々には終わっていないところがたくさんあると思う。
- 政府が責任を認めた場合もしぶしぶ認めただけで、本心からの反省ではない。このため、ポロツと本音が出て問題発言となることが後を絶たない。過去をもっと知って平和の国の道を歩んでいかなければいけない。
- (E) 今回、慰安婦問題をテーマとすることを知り、関係する本を少し読んだ。今回話を聞いて理解が深まった。まず、感謝したい。
- 慰安婦は国家による人権侵害であり、人権侵害の最たるものは戦争である。日本は 60 年にわたって軍

隊によって他国の人を殺していない。このことは大事にしていきたい。

90年代前半に解決に向けた動きがあって、その後だんだん悪くなった。そのことを示すのが6年程前のNHK番組改編問題だ。取材に応じた人の了解無しに大事な部分をカットしてしまった。また、最近の教育基本法改正法案成立のニュースも他のニュースに比べて放送時間が非常に短い。マスコミが政府寄りになっているのを強く感じる。

戦後、私たちは基本的人権を学び、“国家”は死語のようにになっていた。しかし、世の中が個人中心から国家中心になってきている。“美しい国”というのは“美しい”をかぶせているが、あくまで国家中心の考えだ。きれいな言葉の陰にかくれて国家主義的なものが出てきている。これが怖いと思う。

(C) “国益”という言葉をよく聞くようになった。10年位前までは“国益”という言葉を使う人はほとんどいなかったのではないかと。昔は“国益”は世界とともにあると考えられていたから“国益”という言葉が使われることはなかったが、今は自分の国だけが良ければ良いという意味で“国益”という言葉が使われている。これは大きな変化で問題だと思っている。これも国家主義的な考えと繋がっていると思う。

(F) 戦争責任に対する謝罪はどこまでやればよいのか、という疑問を持っている人が多いと思う。例えば中国に対してはODAという形で多額のお金を出してきた。まだ、不十分なのだろうか。

また、世界のことを考えて行動すべきという考えはもっともだが、一方で他国が国益のために行動していることも事実であり、現実的に何をすべきかは並行して考えないといけない。私たちには自分たちの軍事力がなくてもアメリカに守ってもらっているという意識がどこかにある。アメリカの核抑止があるから言える場合も多いのではないかと。

(E) 太田光氏が「憲法九条を世界遺産に」という本を出版し、ベストセラーになっている。世界遺産といわれるくらい特異な憲法を私たちは持っている。アメリカはアフガニスタンでもイラクでも先制攻撃をしているが、日本は今憲法があるから平和活動に限定した参加に留まることができている。それを手放したら先制攻撃に加担することになる。60年戦争せずにやってきた。世界の国々は日本が武器を持って戦わない国だと知っている。そういう宝を持っているのだから放棄してはいけない。

(F) 平和を守りたいというのは同じ。しかし、アメリカに頼っているからイラク派兵を断ることができない。それで良いのかという思いがある。

(G) 従軍慰安婦というのは日本だけか、それとも他国にもあったのか。

(T) 他国にもあったが、国民からの批判があって取りやめになった場合が多い。日本はずっと続けていた。

(G) 飛鳥時代の頃、百済と日本は親密な関係にあった。朝鮮との関係はいつの頃からかおかしくなってしまった。

(T) 日本が朝鮮を植民地にしたからではないか

(G) 先の戦争は悪いことだったと思う。従軍慰安婦のような問題が起こる根本は戦争だ。戦争を起こさないことが最も重要だ。

昔、タイなどに遊びに行く男性が多かった。このようなことと従軍慰安婦は根っこの部分は同じだ。

(A) 遅れた国に女性目当てで遊びに行くのは、日本人が人権を大事にしていないことを表している。

ただし、個人がやっているか、国家が先頭に立ってやっているかという違いがある。国家の人権侵害が間違っているということをもっとはっきりさせるべきだ。

(G) しかし、個人が集まって国家を作っているということも事実だ。

慰安婦の数が5～20万人という話があったが、幅がありすぎるように思う。お互いに認め合うことが大切なので人数をもう少し調べられるなら調べるべきではないか。実際にはもっと少なかったようにも思う。

(T) 5～20万人という数字を信じるわけではないが、少ないとする証拠もない。どちらも正しいと決めつ

けてはいけないと思っている。

- (C) 人数についてはいろいろ調査した人がいるようだが、自分で申告しづらい問題なのではっきりとしないようだ。あいまいなのはある程度止むをえないと思う。
- (T) 北朝鮮の拉致の問題が非常に注目されている。しかし、昔、日本がやってきたことを忘れてしまっているのではないかという気がする。謝罪すべきことを謝罪した上で、相手の謝罪を求めるべきだ。
- (G) 日本人は外に対してなかなか謝れない。どこまで謝ったら良いかという問題もある。特に国家間だと難しい。
- (T) 相手が認めてくれなければ謝ったことにはならないと思う。
- (G) アメリカは日本に原爆を落とした。これは人間として恥ずべき行為だと思う。しかし、日本は負けたからアメリカに対して何も言っていない。常にアメリカにお伺いを立てている状態だ。ノーと言うべきときはノーと言うべきだ。
- (T) それはそう思う。しかし、私たちはその被害しか教わっていない。

[柳沢発言問題]

- (G) 柳沢厚生労働相の「女性は子供を生む機械」発言に関しては、男はそういう本能を持った動物だという面もある。
- (T) そういう決め付けは間違っている。女性はいつから家事をするだけ、子供生むだけの動物になってしまったのか。
- (H) 女性を道具扱いにする意識が男性のどこかにあるように思う。表面には現れないが、どこかで女を見下している心がある。男女全く同じことができるわけではないが、権利は同じであるべきだ。道具のように言われると非常に腹が立つ。自治会の集会で前の方に座ったら、「女は後ろだ」と言われたことがある。そんな封建的なところが身近な所にも残っている。
- (T) 男性が本能的に女性を見下しているわけではないと思う。時代や社会の風潮でそうなっていると思う。
- (A) 女性を虐げる本能が男性にあるのではないと思う。生まれながらそういう社会で育っていることが影響しているので、意識改革が必要だ。優秀な女性は非常に多いと感じている。

[歴史教科書]

- (I) 私は日本が世界で一番反省している国だと思っている。従軍慰安婦や侵略のことを教科書に載せて義務教育で教えているのは日本だけだろう。それは恥ずべきことではなく、誇るべきことだと思う。また、慰安婦問題については、経済的には1960年代に決着済みで、政治的には村山談話で解決したと考えている。
- (T) 教科書に載っているといても1行か2行書いてあるだけだ。それで何が伝わるのか。中学生、高校生は慰安婦について何も知らないと思う。世界に誇れる反省をした国とは到底思えない。
- (I) 韓国は自分たちが加害者になった時に、どれだけ賠償に応じているか疑問だ。ベトナム戦争で一番残虐なことをしたのは韓国兵で、ベトナム人に最も嫌われていた。しかし、韓国の教科書でどこまで教えているのだろうか。
ドイツは教科書を自由選択なので、学校によって教えられたり教えられていなかったりしていると思う。また、スペイン人やイギリス人に過去の植民地支配をどこまで学校で教わったか聞いたことがあるが、歴史を選択していなかったから知らないなどと言われ、全然自分の国の過去を知らない人も多いようだ。日本人だけが悪いことをしてきたわけでもないのに、人類として同じ失敗を繰り返さないために今後どうしたら良いかという視点で考えていいたら良いのではないか。
- (A) 他国がどうこう言うのではなく、相手の国が納得する反省をしないといけない。今の状態では、国とし

て反省しているといっても相手に伝わっていない。

- (D) 小泉内閣でイラク担当首相補佐官だった岡本行夫氏の話聞く機会が12月にあった。「自分たちの世代ではアジアとの関係を良好にできなかったので、若い世代でやって欲しい」という話をされた。そして過去の歴史は反省すべきであり、具体的に取り組むことの一つとして、日中韓共同で歴史教科書を作ることを挙げていた。ドイツとフランスでは共同で作った歴史教科書があり、ドイツ語版とフランス語版が両国で使用されているようだ。
- (T) 日中韓で作った教科書もあって自分たちはそれで学んでいるが、慰安婦について書かれていない教科書もあり、逆方向に進んでいるような気がする。
- (C) 90年代前半に慰安婦問題を解決しようとしていた政権もあったが、その後、後退してきていることが、教科書にも現れているのだと思う。

以 上

次回予定

【日時】2007年4月8日(日)13:30~15:30

【場所】かしはら万葉ホール3階会議室